

3 平成30年度の事業計画

1) 事業の概要

(1) 中長期ビジョン（将来像）の策定

今日入学生の確保をめぐる他校との競争の激化で、学校経営の環境は厳しい状況にあります。本学園も中長期的に安定した経営環境を作り出すことが課題となっています。

本学園は、建学の精神である「学識と技術の錬磨、報恩の精神、不撓不屈の精神」に基づき大学、高等学校、中学校、小学校、専門学校において特色のある教育を行っています。社会からの信頼を勝ち取り、将来を見据えた中長期ビジョン（目標・戦略）を策定して持続的な発展を目指しています。学園各校は、特色のある質の高い教育を提供し、21世紀の国際社会で活躍できる人材を育成する魅力と活力のある学校づくりに努めています。

学園の基盤をより強固なものにしていくためには、①収入基盤の拡大：魅力と活力のある学園作りを目指し、入学者数の増加を実現する。②支出の削減：収支均衡を目標とし、経費の見直し、コストの削減を実現する。③組織力：法人本部と各校が一体となり、情報を共有し、改革・改善を実現する。以上が基本方針です。

学園各校が社会のニーズに迅速に応じて特色ある教育活動を展開し、社会とのつながりを大切にしながら総合学園としての魅力と活力を高めていくことが必要です。平成30年度の事業計画は、こうした基本方針に基づいて計画しました。

(2) 事業計画の策定

平成30年度の学園各校の事業計画は、次の事項に重点をおき策定しました。

- ① 本学園にとって最優先の課題である入学生の増加を実現するための事業であること。【募集インパクト】
- ② 魅力と活力のある学園としての特色ある教育活動を展開すること。【本校の特異化】
- ③ 施設・設備などの改善を計画的に推進すること。【学習環境の改善】
- ④ 学生、生徒、児童が安全に安心して学校生活を過ごすことができるよう安全確保を実現すること。【安全確保、メンタル面でのフォロー】

(3) 地域との連携

本学園は設置各校がそれぞれ地元の皆さまとの良好な関係の中で発展を遂げてきましたが、学園として改めて地域の皆さまのご支援に感謝し、地域との共生や地域の発展に貢献できる諸施策に取り組み、地域に愛される学校を目指します。本学園の教育の基本でもあるホスピタリティ精神の一環としてのボランティア活動をはじめ、地域に密着した教育機関として地元の皆さまのニーズに応える施策の積極的な提案を通じ、地域とともに発展する姿勢を明確にします。

(4) 学園各部門の事業数

平成 30 年度の事業数は、各部門とも平成 29 年度より事業計画数が増加しています。

部門別事業数

【表】

部 門	平成 30 年度		平成 29 年度	
	事業数	予算(百万円)	事業数	予算(百万円)
法人本部	7	1.6	3	1
西武文理大学	39	64.5	21	65
西武学園文理中学・高等学校	13	65.4	10	281
西武学園文理小学校	17	36.6	13	50
西武学園医学技術専門学校	3	11.0	4	40
計	79	179.1	51	437

(5) 学園各部門の事業計画の概要

学園各部門の平成 30 年度の事業計画の概要は、次のとおりです。

① 法人本部

法人本部の事業計画は、次の 7 事業です。

ア 「人事評価制度の検討」

昇進、昇格、配置転換、教育研修、賃金管理等に利用することを目的に検討します。学生、生徒、児童の学力向上や生活指導上の問題に適切に対応するため学校全体の教育力を向上させるとともに、学校組織の活性化を図るため、職員が相互に協力し、理解を深めながらそれぞれの学校が目指す目標に向かって職員一人ひとりの資質を向上させることを目的とします。

イ 「学園各校職務権限表の作成」

組織運営の円滑化推進のため職務権限を明確に定めます。

ウ 「学費システムの更新」

学園各校にクラウドによる共通システムを導入します。

エ 「経費削減・効率化・収益増強と予算管理の徹底」

経常収入が減少しているため経費削減を実現します。

オ 「学園職員研修の推進」

学園の人材育成の一環として実施するものであり、新規採用職員、一般職員、管理職員などそれぞれの対象に即したテーマで実施します。

カ 「小中高 12 年一貫教育体制の再構築」

小中高の 12 年間の教育システムについて検討します。

キ 「人件費支出の見直しの推進」

教育システムの見直しに伴い、効果的な教育及び効率の良い働き方を研究し、人件費の見直しを推進します。

② 西武文理大学

大学の事業計画は、39 事業を策定しています。事業項目別には、募集インパクトが 12 事業、本校の特異化が 8 事業、施設設備の改善が 15 事業、学生の安全確保が 4 事業です。

18 歳人口の減少等に伴い全国の 4 割弱の大学が、入学定員を充足できないという厳しい経営環境にあります。本学でもサービス経営学部の学生募集に影響が出ており、平成 28 年度から募集定員を確保できなくなっています。学内の運営や教育内容の質について抜本的な改革を実施する必要があります。

平成 30 年度事業計画では、これまで培ってきた教育の特色を更に進化させ、特色ある教育活動を内外にアピールするため「大学ブランド化計画」を策定しています。この計画の推進により学生を主体とした地域連携を強化し、本学での学びを広く社会にアピールします。

ア 「大学ブランド化計画」の事業

(ア) 「サヤマ de プロジェクト」

(イ) ホスピタリティ教育に関する国際交流「海外大学との連携事業」

(ウ) 当地域の関心が高い青少年スポーツ教育に関連したバスケットボール及びラクロスの小中学生クラブチーム創設や日本ラクロス協会と共催でのイベント開催の企画・運営に本学の学生が関与するなど学びの拡大を図ります。

(エ) サービス経営学部の学びの中心である「アクティブラーニング」のために学内に専用スペースを設置します。

イ 看護学部の新たな構想

看護学部では、大学院を設置する構想があります。日々進化している医療の分野においては再教育機関としての機能が求められているためであり、また、高齢化社会に合わせ「在宅看護教育の充実」にも取り組みます。

ウ 施設設備の改善

大きな改善事業として、2号館図書館の整備に取り組みます。

③ 西武学園文理中学・高等学校

ア 中学・高等学校の事業計画は、13事業です。平成29年度は生徒の安全確保のため、中学・高等学校の校舎の外壁の点検補修を優先して実施しました。平成30年度は中期計画としている中学棟のBトイレの改修を実施する事業計画を策定しています。

イ 事業の中心は、募集インパクトです。高等学校の大学合格実績は、高等学校募集だけでなく、中学校募集、小学校募集にも大きく影響します。大学合格実績を向上させるため難関大学受験者向けの課外ゼミを増加します。

生徒募集に好影響を与える高校理数科のSSHの導入、中学校で平成30年度から本格的にスタートするグローバルコースなど、教育のソフト面で特色ある教育を展開します。

ウ 施設設備の改善事業では、募集広報活動にとってプラス効果のある高校校舎内の内装改修、中学棟のトイレの改修事業を実施する計画です。

④ 西武学園文理小学校

ア 小学校の平成30年度の事業計画の最優先事項は、入学生の増加を図る募集インパクトです。小学校は、「ロボット教室」を事業計画に取り上げており小学校の教育のひとつの特徴となるものです。現在まで小学校は「英語教育」「国際教育」を推進してきました。公立の小学校での「英語」の必修化への対抗から英語以外の他の特徴もアピールすることを目指します。

イ 高校理数科でのSSHの導入計画は、小学校と中学校の理数教育にとってプラス材料です。高校理数科が行っている「ロボット教室」を小学校段階でも導入し、理数教育にも力を入れているという特色のある教育が推進できます。

このロボット教育でのプログラミング学習は、小学校の特徴として発信するこ

とができます。また、「メディアリテラシー教育」(情報教育)も小学校の大きな特徴であり、英語、理数、IT教育として発信することができます。

ウ 「アフタースクールの拡充」 保護者の仕事の関係などからアフタースクールが学校選びのひとつの基準になっており、この中身の充実を進めることで募集につながる効果があります。

⑤ 西武学園医学技術専門学校・西武文理大学附属調理師専門学校

専門学校の事業計画は、3事業となっています。事業は、主に学生の学習環境整備事業です。

ア 施設・設備の改善事業として、校内塗装工事、学内の再塗装、教室、階段、ドア等の再塗装を実施します。現在、経年劣化などで塗装が剥がれ落ちている箇所がありオープンキャンパス等の校内見学では広報的にマイナスです。再塗装をすることで学生募集にもつなげたいと考えています。

イ 施設・設備の改善事業として、照明のLED化を進めます。LEDで明るさが倍増するので学生が落ち着いて勉強できる環境を整えていきます。

ウ 学生募集活動の事業として学校看板の整備を推進します。校舎北西側の駐車場看板および三角棟の看板修理を実施します。経年劣化が目立っており、修繕、そしてデザインの変更により広報上効果のあるものに変えていきます。

エ 専門学校の募集広報活動

厳しい学生募集状況となっている現状を反映し募集広報活動に重点を置いています。

(ア) 広報のWeb化の推進。専門学校の学生募集は、その対象が高校卒業生、大学生、社会人であり、募集範囲は地域ではなく全国規模です。こうした条件での募集活動では、募集のツールとしてホームページを利用し、SNSの活用などできる範囲でのWeb化を進めます。

(イ) 募集管理ソフト「インフォクラウド」の最大限の活用を図ります。ホームページからの請求者、来校者のフォロー戦略に力を入れます。

(ウ) SNSの活用

「facebook」「twitter」に加え「instagram」を利用し常に募集対象者の目線に立って広報活動をしていきます。今後「Line」の導入も検討していきます。

以上